

2021年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022年3月25日

報告者	学科名	子ども学科	職名	教授	氏名	山本 孝司
研究課題	道徳教育における「主体的対話的で深い学び」に関する思想的研究－アダム・スミス「道徳感情論」再考－					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	山本孝司	子ども学科・教授	教育学	研究の調査、分析、総括	
	分担者					
研究実績の概要	<p>《本研究の概要》</p> <p>本研究は、アダム・スミスの『道徳感情論』等の著作群の中に示される言説を研究材料とすることはもちろんのこと、スミスの道徳教育思想の全貌をスケッチするために、彼の著作のみならず、18世紀啓蒙主義の思想家による理性主義の立場との比較を通して、彼の道徳教育思想の位置づけを行い、道徳感情論の特質を描出する。さらに今日の学校教育における「考え議論する道徳教育」、道徳教育の「主体的・対話的で深い学び」で目指される合意形成にのつての授業の在り方について、スミス道徳感情論の「同感」（共感）概念から示唆を得ることを目的として研究を進めた。</p> <p>本研究の中では、アダム・スミスの著作に関する文献研究、アダム・スミスに関する文献レビュー、道徳教育における子どもの主体的活動に関する文献レビューという方法を通して、次の三つの考察を行った。</p> <p>1. アダム・スミスの「道徳感情論」に関する考察</p> <p>スミスの『道徳感情論』（The Theory of Moral Sentiments）の中で描かれた彼の人間理解のあり方と社会における円滑な人間関係構築のための「公平な観察者」を自己の内に想定することを通しての同感に焦点化してスミスの「道徳感情論」の特質について論考した。</p> <p>2. 18世紀の理性主義との対比におけるアダム・スミスの思想的意義に関する考察</p> <p>18世紀のフランスで主流となった啓蒙主義の思想の中では、理性が重視され、その思考の普遍性と不変性が強調された。この理性は、自己に内在する自然を吟味する機能であったが、これによって得られる明証性にデカルト以来フランスでは焦点が当てられたことから、理性と経験とが分離し、イギリスにおいて認識論の色彩を帯びながら経験主義として発展してきた理性概念とは袂を分かつことになった。この流れの中でスコットランドを中心として感覚・感性を軸に、理性概念の捉え直しが起こる。スコットランド啓蒙主義と呼ばれる一団であり、この思想家群の中にスミスも含まれた。とりわけ本考察においては、ヨーロッパ啓蒙主義思想の中でのスコットランド啓蒙主義の位置づけを行うとともに、にスミスの道徳感情論のスコットランド啓蒙主義内での位置づけを行い、その思想的特質と意義を探った。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>3. 「道徳感情論」の今日の学校教育における「考え議論する道徳」援用に向けての考察</p> <p>現行（平成 29 年 3 月改訂）「学習指導要領」においては「主体的・対話的で深い学び」のスローガンの下で、新しい学力観としての「資質・能力」の育成が目指されている。前学習指導要領の一部改正（平成 27 年 3 月）時に「特別の教科 道徳」として「道徳」が教科化される際、道徳教育においては、「考え、議論する道徳」という授業観の提示により、先行する形で「主体的・対話的で深い学び」の実践が目指された。具体手には、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた多様で効果的な指導法の採用によって、従来型の「読む道徳」から「考え、議論する道徳」への転換が図られた。それと同時に、道徳性の捉え方として、従来の「道徳的心情」よりも問題解決能力としての「道徳的判断力」に重きが置かれる傾向にある。</p> <p>本考察においては、考察「1」、「2」を踏まえて、利己心を出発点としながら自他の行為の適切性を他者への「共感」作用に求めるスミスの道徳感情論に、日本における「道徳的心情」に重きを置いた心情主義道徳教育とは異なる「道徳的心情」の捉え方を探り、問題解決能力としての「道徳的判断力」重視の「考え、議論する道徳」の中でも依然として「道徳的心情」の働きが重要であることを示した。</p> <p>上記の3つの研究を順次進め、アダム・スミスの「道徳感情論」を手がかりに、今日の学校現場で推奨される「考え議論する道徳」の道徳教育原理に対してスミスの道徳教育思想のもつ現代的意義について明らかにした。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>山本孝司「道徳教育における「主体的対話的で深い学び」に関する思想的研究ーアダム・スミス「道徳感情論」再考ー」（『OPU フォーラム 2022』特研（独創）：教育）</p>